

前期第二中間試験 講評

「前期第二中間試験」が終わりました。前回の定期試験は中学校に入学して初めてでしたから、なかなか思ったようにはいかず不完全燃焼だった生徒も多いと思いますが、今回の試験には前回の反省を生かせたでしょうか？

点数ばかり見て、「良かった」・「悪かった」と一喜一憂していませんか？これでは、なかなか次につながっていきません。試験結果を細かく分けて反省しよう。すると、「力を入れて勉強したところは取れた」、「あやふやなままにしておいた分野は、やっぱり失点した」といったことが見えてきます。「良い評価」は次に進んでいくエネルギー源になりますし、「悪い評価」は「伸びしろ」ですから、しっかり手当てすれば確実に学力アップにつながります。自分の答案用紙を細かく分析するところから始めよう。

以下に、各教科担当の先生から、今回の試験について皆さんへのアドバイスをまとめています。ここに書いてあることを謙虚に受け止め、「今回の試験の解き直しと復習」→「夏休みの学習」→「夏休み明けすぐの実力試験」と、流れを作っていこう。

【国語】(大門先生)

今回は、現代語の文法事項を中心に出题しました。授業では何度も復習し、試験前には多くの生徒が積極的に質問に来てくれ、わからないところをわからないままにせずに試験を迎えた人が多くいたように思います。その頑張りもあり、今回の平均点は 72.58 点と前回よりも大幅に点数が上がりました。「わからないところをわからないままにしない」ということはもちろんですし、「前回以上を目指す」という向上心も今回は感じられました。この二つの気持ちを持ち続けていってほしいと思います。次回の実力試験に向け、夏休みの補習や宿題にもしっかりと取り組んでください。

【数学】(松永先生)

平均点は 61.5 点で、前回よりも下がりました。大問 2 での計算ミスが影響しているようです。文字式の計算は高校数学まで続きますが、基本的な計算練習をする時間があるのは今だけです。大問 3 の式の値を求める問題では、数を代入せずに、式を整理して終わってしまっている答案がありました。授業時にも見られたミスで注意していたはずですが、もったいないです。

大問 5 での単位をそろい忘れるミスも第 1 中間試験で指摘していました。答え方も含めて復習してください。大問 7 の説明問題は差がつかしました。小学校の「算数」から中学校の「数学」へと変わる典型的な問題ですので、頑張りましょう。

【英語】(品田先生)

試験範囲の Lesson 3・4 は、一般動詞の使い方（平叙文・否定文・疑問文）がメインで、some と any の使い方、疑問詞 where と when の疑問文もポイントでした。

問題 I のリスニングは、前回同様に授業で扱った母音の発音に関して作問しました。紛らわしい 2 つの母音の発音を聞き分ける問題を 10 点分出題しましたが、70 名中満点が 43 名、9 点が 16 名で、10 点満点の平均点は 9.34 点という大変良い結果でした。次回はもっと紛らわしい音の聞き分けに挑戦してもらう予定ですが、満点が多数出ることを期待しています。

問題 V の並べ替えと VI の書き換えの問題では、英文の語順の理解がまだ不十分な解答が見られました。現段階では短い文ばかりです。日本語と異なる英語の語順を早く身につけてください。

試験前には、理解の定着を目的に問題演習を繰り返しました。その成果が出た生徒もいます。”Practice makes perfect.”（習うより慣れよ）です。

平均点は 63.01 点で前回とほぼ同じ結果でした。60 点～64 点が一番人数の多い分布となりましたが、30 点～34 点が次に人数の多い分布で、2 つの山ができてしまいました。50 点未満の人の中には、授業中にノートを取らずに集中していない生徒が見られます。日常の授業に臨む姿勢を改善する必要があります。中学が始まってまだ 3 か月です。中学 3 年間の中ではまだ始まったばかりです。夏期補習と夏休み中の学習を通して、今のうちに遅れを取り戻してください。

【社会】(酒井先生)

今回は「地理的分野」と「歴史的分野」からほぼ半分ずつ出題し、平均点は 77.0 点でした。「地理」では【1】の世界の気候は雨温図の読みとり、【2】【3】の各地の生活と環境では、各地域の衣食住の判別ができるかどうかを問いました。また、問題集でやった問題を中心に、論述問題を出題しました。比較的良く理解し、書けていたと思います。何より、論述問題を空欄にする生徒が少ないのは好印象です。

「歴史」では【5】「人類のおこり」、【6】「四大文明」、【7】「ギリシア・ローマ」などの世界史の内容を中心に出题しました。一度取り組んだ問題は、次には間違えないようにする生徒が多かったといえます。単に語句を暗記するだけではなく、「なぜこのような結果になったのか」であるとか「なぜこのようなことがわかるのか」といったことが大切で、この『暗記の向こう側』を意識してくれることを期待しています。ただ、①漢字を間違える。②問題集と同じ問題が出てても答えることができない……など、もったいないミスをした人は、できたつもりにならないように注意しましょう。

【理科】(村岡先生)

化学分野の一部からの出題で、平均点は 66.8 点でした。前回の生物分野と大きく異なり計算問題が出題され始めたことが平均点のダウン（－4.9 点）につながってしまったように思います。しかし、良かった点もたくさんありました。以下に今後の学習で気をつけて欲しいことを 3 点挙げておきます。活かしてください。

- ① 大問 I「元素記号」は、授業内でたくさん練習しました。完璧に取れて欲しかったところですが、ポロポロと失点した生徒が少なくありません。来年は 36 番のクリプトン Kr までいきます。20 番のカルシウム Ca までは完璧に仕上げ、忘れないための努力を！
- ② 大問 III「実験操作」はとてもよくできていました。実験室で学習した際、「今日はノートを開かない。伝えることはすべてここで覚えて。」と指示し、細かいことまでたくさん話しましたが、大変よく覚えていてくれました。すべての操作、すべての事故には理由があるので、これからも「知識に支えられた思考を踏まえて行動する」ということを大切にしてください。

また、これからは理科だけでなくすべての教科で「記述・論述問題」が増えていきます。日頃から「正しい日本語で論理的に述べる」ということを意識しましょう。そのためには、「大風が吹く→桶屋が儲かる」だけを丸暗記するのではなく、その過程（プロセス）を一つずつ理解することが大切です。思考することを面倒がり、そこから逃げるようなことがあってはいけません。その時点で「思考停止」の状態です。

- ③ 大問 IV・V「密度の計算」について、まずは密度の定義「単位体積当たりの質量」を確実に覚えること。塾で教わるような「[体積] 分の [質量]」のような学習は絶対に止めるように言いましたね。思考することから逃げてはいけません。いつも考え続けることによって「常識」と変えていくのです。そのときに軸になるのが「定義」です。また、たくさん練習すれば、今後ますます増えていく計算問題にしっかりと対応できるようになります。反復練習を頑張ろう。